

令和7年3月4日

砧中学校 関係者の皆様

砧の学び舎 世田谷区立砧中学校

校長 加藤敏久

令和6年度 学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策

はじめに（総評・まとめを受けて）

令和6年度アンケート回収率 生徒 86.5% 保護者 53.9% 地域 53.4%

令和5年度アンケート回収率 生徒 78.0% 保護者 38.0% 地域 22.0%

本年度はアンケートの回答率を高めるために、対象の方々へのていねいな説明と適時リマインドを行った。総評ではその成果を評価していただいているが、今後も工夫を重ね、さらに実効性のある学校評価にしていきたい。

また、どの項目においても生徒の肯定的意見の割合はかなり高いものの、保護者からは「わからない」の回答が多い傾向が見られた。委員会からは「学校の様子が十分に伝わっていないのではないか」というご指摘をいただいたが、本校の学校ホームページは区内小中学校で閲覧数が最も高い。コロナ禍以降、学校と保護者が直接話す機会が減少したことや、「中学生になると子供が学校のことを話さなくなる」「安心して学校にお任せしている」ということもよく聞くので、保護者の閲覧者数をより向上させるよう工夫することはもちろん、学校公開や保護者会への参加、学校行事の参観、PTA活動の活性化などを通して改善を進めていきたい。

以下、各項目についての改善案である。

1 学習指導について

教員への各種研修の推奨、校内研修の充実をはかり、個別最適な学び・協働的な学びを一体的に実現する授業力を向上させ、誰にとっても分かりやすい授業を展開する。

また、授業や諸活動の様子についての情報を学校ホームページ等で提供し、保護者が適宜、学習の状況を知ることができるようにする。

2 生徒指導について

学校での過ごし方や服装・持ち物などのルールについて、今後も生徒の意見を聴き、引き続き自分で選択できる場面を多く設けることで、生徒の主体性を育てていく。このことは、年度当初の保護者会で、学年ごとにルールの確認と現状と合わせて話題にすることで共通認識を進める。

また、人権教育、道徳教育の充実と発信に取り組み、寛容で思慮深い生徒を育成する。

3 学校行事について

生徒の活動意欲や達成感、満足度を維持しつつ、各学校行事を持続可能な形で実施するため、生徒の意見を取り入れたり、学校運営委員会やPTA 役員会等の意見も参考にしたりしながら、目的の明確化による学習効果と生徒・保護者・地域の納得感や満足感のある計画を立案する。

4 キャリア教育について

アメリカポートランドのマウントテイバー校やカナダオレゴン州ウィニペグのリンデンメドウズスクールとの交流をはじめ、TGG での英語移動教室、I 組生徒と留学生との交流、生徒会役員とスリランカの中学校との交流など、グローバル教育に関する活動を引き続き実施していく。

また、本年度の世田谷区のキャリアアワード奨励賞の受賞に引き続き、次年度も地域人材の活用を進め、生徒のキャリアに関する興味関心を高める活動を企画し、成果を発信する。

キャリア・パスポートの取り組みも、保護者会等で積極的に紹介していく。

5 先生（教職員）について

働き方改革が叫ばれる中で、生徒・保護者・地域の要望とのバランスを取り、例年と変更がある場合は、学校運営委員会をはじめ、あらゆる手立てで計画的かつていねいに説明する。

また、現在の良好な状況が今後も保たれるよう、生徒のよさを話題にした教職員間の情報共有を推進する。

本年度取り組みを始めた研究推進委員会を軸に、生徒理解や特別支援教育等に関する校内研修をさらに充実させ、生徒との信頼関係を強くしていく。

6 全般について

Qubena（キュービナ）等の自主学习用ソフトについて、教科部会等で ICT や AI 活用推進のための方策を検討する。

学び舎の連携については、生徒による小学校でのあいさつ運動を継続する。また、奉仕の精神の涵養のため、ボランティア活動へのさらなる参加率向上を目指し、ロイロノートで直接生徒に募集の呼びかけをする。現在実施している小学生の砦中訪問や、教員の学び舎研修会などの情報をホームページ等で紹介していく。

7 部活動について

概ね高い評価であるが、今後も生徒が「楽しい」「達成感がある」と言えるよう、多様で活発な部活動を維持していく。区の地域移行の施策に協力しつつ、地域支援本部等の協力を得ながら、地域人材の活用等、持続可能な部活動のあり方を工夫する。

8 学校からの情報提供について

ホームページや「すぐー」については高い評価をいただいたが、今後、学び舎の活動に関する情報発信にも積極的に取り組む。まずは小学校のホームページと記事を共有し合うなど、客観的にわかりやすい形で学び舎内の連携を発信する。

9 学校運営について

「学校行事の内容が充実している」については高い評価であるものの、「保護者に指導の重点を伝えている」においては課題をご指摘いただいた。年度当初の保護者会で本校の指導の重点を明示するとともに、様々な教育活動に魅力を感じてもらえるような説明と情報発信を工夫していく。

10 家庭との連携について

保護者の学校公開への参加状況の課題に対し、保護者の関心を高め、来校してもらえるよう工夫をするようご指摘いただいた。実際には子供が中学生になると学校への関心が徐々に薄くなっていくことや、仕事の都合でご参観が難しい方が多いと思うが、学期に一回は土曜日に授業公開日を当てて学校行事やPTA活動等と組み合わせたり、公開日の様子をホームページで積極的に発信したりして、できるだけ学校の様子を理解していただけるような工夫を進める。

英検プロジェクトについて、PTA運営委員会で発信したり、協力を求めたりして、持続可能な取り組みとして継続を図りたい。

11 地域との連携について

ボランティアに参加する意欲が高い生徒をさらに増やし、地区の青少年委員会でも積極的にPRしていく。

また、学校運営委員会や学校関係者評価委員会等の情報をホームページで発信し、多くの方々に本校の教育活動が支えられていることを知らせていく。アンケートの際に学校要覧やPTA機関紙など回答の参考になる情報を合わせて送付するなどして、わからないという回答を減らし、回収率をより向上させられるように工夫を続ける。

12 学校の安全性について

学校や教室で安全に安心して過ごせるよう、「学級経営は人間関係づくり」をキーワードに、いじめを予防し、個性や多様性を尊重する寛容な環境づくりを進める。

また、より実効性のある避難訓練を目指し、生徒への事前連絡をしないパターンや休み時間を想定したケース、Jアラート発令時などの新たな取り組みをいっそう進める。避難所運営委員会などを通し、災害対策において地域との連携・協力を維持していく。

文責 副校長 阿部 暁
教務主任 稲山 慎一